緑友だより

NO. 42　　53/7

全国印刷緑友会機関誌

東京都杉並区和田1-29-11　（社）日本印刷技術協会内
◇発行人＝作道亮雄◇編集人＝小林　直

第21回定期総会終わる　　4月16日・横　浜

第21回定期総会は、さる4月16日（日）、神奈川正和会のホストにより、総会を横浜国際会議場、懇親会を華正楼本店で行なった。(詳細は議事録参照)。出席20グループ40名、オブザーバー31名で、円滑な運営により盛大かつスムーズに総会行事を終了した。

総会記念撮影（横浜国際会議場）

第21回 定期総会議事録

1．日時　昭和53年（1978）4月16日
　　午前10時30分開会
2．場所　横浜産業貿易センター国際会議場
3．主管　神奈川正和会
4．総会経過　　司会　平井琢美君（神奈川）
　(1)　開会宣言　　牧野貞夫君（神奈川）
　(2)　国歌斉唱
　(3)　綱領唱和　　長倉克彦君（茨　城）
　(4)　物故者に黙禱
　(5)　来賓及びグループ紹介
　(6)　歓迎のあいさつ　　高橋清重君（神奈川）
　(7)　会長あいさつ　　作道亮雄君（大　阪）

〈作道会長のあいさつ要旨〉

名古屋総会で会長に選任されてから一年、東京での20周年大会をはじめ、会の行事運営に対する多大のご協力に、厚く御礼申し上げたい。

不況色は一段ときびしく、業界においても受注の減少、採算割れ受注、といった話を、たえず耳にしロにする。鉄鋼、造船、繊維、住宅などの不況産業の大型倒産が目立っている。最近では永大産業、VAN ジャケットという大型倒産が発生し注目された。いまやすべての業種にわたって、多くの企業が、かってないピンチに立たされている。

高度成長期には、倒産の情報の中に印刷会社の名があっても、何となく他人事のように、弥次馬的に見ていたが、現実には、自分にも回り回ってくる問題だ。貸倒れが発生した印刷会社は、当面の資金手当に奔走するとともに、受注減少分の補塡のため、新規受注の獲得にのり出す。以前はまだマーケットに、それだけの余裕もあったが、今、その余裕を失っている業界にあっては、一社の貸倒れ損金が、熾烈な過当競争を生み出すことになる。決して関係外の問題だとはいっていられない。

このような時にあって我々は、青年印刷人として、あるいはグループのリーダーとして、変化に対応した意識変革と合理化を自ら図るとともに、会員相互の交流、拡大を図る必要があると思う。親しい友人、知人が出入りしている会社に売込みはしないだろうし、友人が貸倒れにあえば、何とか助力を、という助け合いの気持が起るはずだ。ただし、それは、昨日や今日のつき合いからは出て来ない。やはり縁友は、永い間払ってきた努力によって、有形無形の成果をあげてきているが、こういう時代に直面した今こそ、その必要性と価値を再認識し、我々の活動が業界の安定に寄与するものであることを信じて、より一層活発な活動を推進して行きたい。今後も一つでも数多くのグループの参加を願っている。その意味からも、今日の総会が価値ある総会として、第21期への総意形成が図れるよう協力をお願いしたい。

地元神奈川正和会では、昨日創立20周年式典を挙行、引続いて本日また21回総会を主管して頂き、その御苦労に心から御礼申し上げたい。

　(8)　来賓祝辞　神奈川県印刷工業組合
　　川上久次理事長
　(9)　議長選出　司会者一任となり、司会者の指名により、
　　筒井尚亮前会長
　　議長に選任される。
　(10)　議　事

①　昭和52年度事業報告　飯田範夫常任幹事

(1) 52・4・23　第20回定期総会

場　所　名古屋　名鉄グランドホテル
幹事グループ　名古屋而立会
　　会長　池田達彦君
参加グループ　21グループ52名
　　ほかホストグループ
司会　吉田秀雄君　議長　若山晃一君
　　綱領　末若直司君

1．入退会の件　入会　広島青年印刷研究会
　　代表　国光俊彦君　会員24名
2．事業報告（渡辺守将君）
　決算報告（水谷基也君）
　監査報告（八十島敏行君）
3．役員改選（前会長新会長推薦　新会長常

任幹事を推薦する）

4．新会長あいさつ　筒井前会長退任あいさつ

5．52年度事業計画（作道新会長）
予算計画（井上新会計）

6．次期総会開催地の決定
代表あいさつ　神奈川正和会　尾崎郁雄君

7．記念講演　前名古屋市長　杉戸　清氏「名古屋の今昔」

8．懇親会　来賓祝辞　東青協　八十島敏行氏　JC印刷部会　竹田光宏氏

(2) 52・6・25　グループ長常任幹事合同会議

場　所　東京築地「治作」
参加メンバー　19グループ　22名
幹事グループ　印刷同友会
司会及議長　会長担当

1．講　演「ドルッパ報告と今後の印刷業」
塚田益男氏

2．議事審議
① 会長基本方針及具体的改革案について
② 52年度事業計画の具体的進行について
③ 各グループ緑友担当者の任期期間とその同調化について
④ 20周年大会の準備状況と依頼事項について
⑤ 継続事業について（緑友会歌・写真入名簿の作成方）

(3) 52・10・8　全国印刷緑友会創立20周年記念大会

（大会テーマ　高度化社会における印刷未来像をさぐる）
場所　帝国ホテル　富士の間
参加メンバー　25グループ　352名
オブザーバ・ゲスト参加4団体18名
計370名
幹事グループ　在京6グループ共同担当
実行委員長　中村守利君
司会　一部　米屋　功君

1．式典　来賓　佐久間長吉郎　矢板東一郎　赤羽根雅右衛門　三氏

2．記念講演「情報社会における未来思考」
糸川英夫氏

3．分科会　テーマ
魅力ある印刷産業のために

●第1分科会　技術展望
—時代の転換と技術の進歩—
講師　井上英一氏
仙台刷親会
T.L 佐藤好孝　S.L 庄子　義

●第2分科会　経営理念・思想・哲学
—魅力あるこれからの経営とは—
講師　末松玄六氏
名古屋而立会
T.L 吉田秀雄　S.L 池田達彦

●第3分科会　教育を考える
—見なおそう、新しい人材育成を—
講師　佐藤　守氏
ぎふ印刷翠陽クラブ
T.L 若山晃一　S.L 水谷勝彦

●第4分科会　労務問題を考える
—柔軟な前向きの発想を—
講師　竹村慶三氏
大阪青年印刷人クラブ
T.L 満谷健作　S.L 中村恵昭

●第5分科会　印刷業の社会ニーズを考える
—近き未来の新しい発見を—
講師　横山芳文氏
福岡印刷若葉会
T.L 末若直司　S.L 原　維宏

4．緑友会旗伝達　次期開催地あいさつ
沖縄青年印刷若潮会代表　大城新正君

5．懇親会

(4) 52・11・19　グループ長常任幹事合同会議

場　所　大阪第一ホテル
参加メンバー　16グループ　26名
幹事グループ　大阪青年印刷人クラブ
司会　飯田範夫君　議長　渡辺守将君

1．議事審議
① 20周年記念大会報告と20年史遅延事由について
② 金沢青年印刷人クラブ入会申し込み承認の件
③ 広島セミナー詳細打合せについて
④ 神奈川総会詳細打合せについて

⑤ 沖縄大会スケジュール及参加方法について
⑥ JC 印刷部会主催工場見学会参加中止事由について
⑦ 昭和54年度の大会総会セミナーの開催地の決定について
⑧ 緑友会歌及写真入名簿作成の最終案について
⑨ 緑友会会則の整備確認について

(5) 52・11 「金沢青年印刷人クラブ」入会

会員26名 代表 横井 勲君
事務局 金沢市野町5-18-92 横井印刷（株）

(6) 53・3・4～5 第10回 緑友会広島セミナー

場 所 広島 ニューヒロデンホテル
幹事グループ 広島青年印刷研究会
代表 国光俊彦君
参加メンバー 20グループ 93名
司会 宇都宮五郎君
第1日
一）開会式
二）第一講「これからの経営環境と経営体質創り」
東海大学助教授 鈴木 博氏
三）原爆慰霊碑参拝献花 資料館見学
四）懇親パーティ
第2日
五）第二講「心の経営実践の道」
積水化成品工業㈱ 専務 川本 貢氏
六）第三講「経営管理と広商野球」
広島商業高校野球部長 畠山圭司氏

(7) その他

1．緑友だよりの発刊 52年7月＝No. 40
53年3月＝No. 41
2．第2回西日本青年印刷人の集い 佐賀県嬉野温泉 52・5・21～22
幹事グループ 佐賀若楠会 代表 伊藤文雄君
3．第二回緑友20年史編さん委員会 52・4・28
東京 築地「治作」 市村氏外18名出席
4．20周年記念大会 OB 前夜祭 52・10・7
東京 神田「花屋」 市村氏外26名参加
5．20周年を迎えるに当って 五社共同紙上座談会 52・9・9 東京
市村・白石・安達・筒井・作道・中村・飯田・末若
6．常任幹事会の開催 第1回 52・8・27 東京。第2回 53・3・4 東京

② 昭和52年度決算報告

井上雅巨会計幹事（別掲）

③ 昭和52年度会計監査報告

広橋裕介会計監査

④ 昭和53年度事業計画 作道会長

1．第21回定期総会の開催 53年4月16日
主管 神奈川正和会
横浜市 産業貿易センター 国際会議場
2．工場見学会
9月～10月 JC 主催見学会への協力参加
3．第21回全国大会の開催 10月6日㈮～7日㈯ 主管 沖縄青年印刷若潮会
沖縄那覇市 パシフィックホテル沖縄
大会テーマ「青い空・海・協調と創造を求めて」
4．第11回セミナーの開催 54年2月～3月 主管 大阪青年印刷人クラブ
5．全国グループ長・常任幹事合同会議
53年 2回開催予定 常任幹事会・グループ長会議
① 各グループの現状と問題点の交換
② 緑友会運営諸問題について
③ その他
6．「緑友だより」の発行 2～3回 東京同友会担当
7．常任幹事会の開催 8月 全国グループ長会，常任幹事合同
必要時適宜開催
8．その他

⑤ 昭和53年度予算計画

井上会計幹事（別掲）

以上のうち、④の事業計画の提案中、10月の沖縄大会分科会のテーマについて問題提起があったが、筒井議長あとの「その他」の案件として扱うという形で処理。

事業計画案中、JC との交流をめぐって、若山

晃一君（岐阜）が発言。「緑友会とJCとの交流をめぐって、互いに行事を知らなかったりすることがある。事業計画を両者で交流してほしい」と要望。作道会長「私自身はJCにうといが、今後はスケジュールを知らせたい」と答弁。若山君重ねて「スケジュールの調整だけは密接にしてほしい」と要請した。

⑤の予算案説明にあたって、井上会計幹事は、(イ)本日配布の会員名簿の会員数は1018名になっているが、現在の実会員数は993名である。(ロ)今期から新たに、繰越基金を設け、53年度は54万円を計上したと説明した。

以上の案件いずれも拍手により可決された。

⑥　次期総会開催地の決定

作道会長、第22回総会主管グループとして岐阜県の「ぎふ翠陽クラブ」を指名提案。

同クラブ鴻村満代表が受諾のあいさつを述べ、「岐阜としては、第6回総会、第15回大会に続く開催になる。今年は当クラブの20周年にあたり、記念行事の準備を進めている。」と併せて報告。

⑦　その他

沖縄大会における分科会テーマについて、かねて担当を依嘱しているグループに案を諮問したところ、

○千代田印刷人新世会「期待される後継者像」
○長野青年印刷人緑友会「小規模経営における企業内教育」
○仙台刷親会　　未定
○福岡若葉会　　未定

以上のような結果だった。（もう一つは沖縄が担当）

これについて、作道会長は次のような参考提案を出し、次回常任幹事会で決定することにした。

(1)　不況にいかに対処しているか
(2)　経営にどのような基本理念をもっているか
(3)　生産、売上増進のためどんな対策をとっているか
(4)　技術向上のためにどんな対策をとっているか
(5)　損益管理をどのように実行しているか

以上を以て議事を終了。

引続きコーヒーブレイクのあと、記念講演は金原亭馬生師匠の「芸道あれこれ」、記念撮影を経て、秋山至君（神奈川）の閉会の辞をもって総会を終了。華正桜本店での懇親会に移る。

友愛奉仕の精神で！

会長　作道亮雄

（前略）昨年は緑友会20周年の年に当り、各行事、ホストグループの方々は勿論全国の皆さんにも大変ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

今振り返って見ますと、昨年に20周年の行事がやれて良かったと思います。もし今年に当っていれば物心両面から見て大いに負担であり、難かしいものがありましょう。今年は企業の存亡を試される年とも言われております。緑友30年への初年度としては大変な年で、厳寒の北壁登山を強いられるような苦難のスタートであります。

その試練の年に当って緑友会は如何に歩むべきかでありますが、その問いかけについて真剣に考え、よりベターな指針を見出すのが第21回総会の持つ意義であると考えるものです。

私自身は、より効率的運営を図り、且つ全国各グループに寄与出来る姿を、今こそ緑友会将来のために願って止みません。

緑友会は友愛奉仕の精神を基本とし、意欲ある青年印刷人がチャレンジを試み、その相互研鑽の中から自己の向上を図るもので、時にはチャレンジの場、時には交流の場、時には安らぎの場であろうかと思います。我々は現在が如何に厳しい時代とは言え、緑友会の基本的在り方を歪めることなく、その時代に即応したものとして緑友運営を成して行くべきだと思います。（後略）

第21回定期総会案内あいさつより抜萃

昭和52年度決算報告書

（昭和52年４月１日～昭和53年３月31日）

収入の部　　支出の部

科目	金額	摘要	科目	金額	摘要
前期繰越金	285,392円		総会補助	100,000円	名古屋
会費収入	1,569,200		大会補助	300,000	東京
入会金	20,000	金沢青年印刷人クラブ	20周年補助	100,000	〃
受取利息	15,301		セミナー補助	100,000	広島
雑収入	408		緑友だより	153,660	２回発行
			会議費	133,510	常任幹事，グループ代表者会議
			事務費	147,660	日本印刷技術協会
			慶弔費	20,000	
			印刷費	33,150	
			通信費	27,170	
			会長出張費	150,000	
			雑費	37,450	国旗１枚，会計印，振込料
			次期繰越	587,701	
合計	1,890,301		合計	1,890,301円	

昭和53年度予算（案）

（昭和53年４月１日～昭和54年３月31日）

収入の部　　支出の部

科目	金額	摘要	科目	金額	摘要
前期繰越金	587,701円		総会補助	150,000円	
会費収入	1,539,600	（29グループ993名）	大会補助	300,000	
			セミナー補助	100,000	
			緑友だより	200,000	年２回発行
			会議費	300,000	
			事務費	100,000	
			慶弔費	70,000	
			印刷費	70,000	
			通信費	40,000	
			会長出張費	150,000	
			予備費	107,301	
			繰越基金	540,000	
合計	2,127,301円		合計	2,127,301	

創立20周年を迎えて

神奈川正和会　髙橋　清重

さる4月15日、神奈川正和会は、横浜市磯子区の横浜プリンスホテルにおいて、神奈川正和会創立20周年記念式典を開催した。当日は、来賓に参議院議員秦野章先生をはじめ、県印刷工業組合の川上理事長、組合員の方々ならびに関連業界の方々のご出席をいただき、また正和会歴代幹事長、幹事、先輩各位のご参集、そして作道会長をはじめとして、全国印刷緑友会の諸兄多数のご参加をいただき、盛大に式典を挙行する事が出来た。

当日は、平井琢美君の司会によって式典が進められ、牧野貞夫君の開会の辞、国歌斉唱、物故ＯＢ会員への黙禱、そして20周年式典実行委員長北島崇弘君の歓迎の挨拶、ＯＢ会員への感謝状の贈呈、来賓の祝辞とつづき、引続いて神奈川県印刷工業組合顧問でもあり、正和会生みの親ともいうべき江森八十吉氏によって、正和会のルーツや、設立当時の苦労話、エピソードなどを交えてのご挨拶があった。とくに江森氏のお話で、始めて正和会の歴史、設立目的などを知った若手会員も少なくなかった。

同氏は20年にわたる正和会の歴史を振りかえり、20年という年月がいつのまにか過ぎ去ってしまった。中国語に〝兎走鳥飛（とそうひ）〟という言葉があるが、これは日月運行の速やかさをいったもので、日本流にいうと〝光陰矢の如し〟〝月日に関守なし〟というところだろう。まったく同感である。

20年前の昭和33年3月17日、東京印刷同友会の高橋与作氏（神奈川正和会名誉会員）のすすめにより、初代幹事長故大川俊郎氏のほか16名のメンバーによって設立されて以来、20年間連綿として今日を迎えた事は感無量の気持でいっぱいである。

その間には、いろいろと変遷があった。昭和35年池田内閣によって所得倍増に拍車がかけられ、その後好況、不況の波乱を経ながらも、どうにか順調に発展して今日に及んでいる。しかし、いまや行過ぎもあって、あらゆる面でその弊害がたくさんあらわれてきているように思う。遠くグーテンベルグの昔日の話は別として、日本では本木昌三先生が、活版技術を発明されて百数十年、今日における印刷技術の輝しい発展を見るとき、青年印刷人であるみなさんにぜひ先生を思い起してほしいと言いたい。

天野貞祐先生が、昭和30年1月、「読書と思考」という本を出版されたが、その本の中に印刷産業における最高の理想が書かれている。それは、「人間は考える存在者である。考えない人間というのは、泳がない魚、飛ばない鳥をいうもので、その存在を考える事が出来にくい。思考の結果である思想は、精神の客観的表現である。精神の言語による客観的表現を媒介として理解する道が、すなわち読書である。われわれは読書によって、古代の思想家とも、他国の詩人とも、時代を越え、国境を取り去って親しく喜び合うことが出来る。われわれは今日、多くの発明家の恩恵を受けているが、グーテンベルグによる活版技術の発明は、その最たるものではなかろうか。この発明こそ人類にとってはまことに祝福すべきことであり、彼こそいかに賛美してもなお足らざる人類の大恩人というべきだろう。彼の天才的創意とに加えて苦心惨胆、営々努力の成果は、彼個人のみの一大成功にとどまらず、人類史上における世界的快挙である。」以上が原文より抜粋した一部であるが、正和会のメンバーも、青年印刷人として自らの仕事に誇りと自信をもって、会発展のため、印刷文化発展のために努力してほしい。と挨拶を結ばれた。

われわれ正和会員一同は、この20周年記念を良い機会として、あらためて20年の過ぎこし方を振りかえり、さらに30年、40年という将来をも洞察して、創立精神をつねに忘れることなく、その基盤の上に立ち、新しいものへの創造に取り組むことが、正和会のかぎりない発展につながる大切なことだと思う。20年の歴史と伝統を支えに、ますます会員の一致団結をはかり、正和会と印刷業界の発展向上に努力する所存である。

「出会いと友情」で仲間の輪

千代田印刷人新世会　中村　勝亮

千代田印刷人新世会が、創立10周年を記念し、4月2日午後2時から銀座資生堂パーラー「ロオジェ」で式典、会旗発表、十年史刊行の3つを柱として祝賀会を開き、東印工組千代田支部顧問、相談役、執行部を来賓に迎え、会員および家族づれ80名が参加して、賑々しく催された。式典には、作道亮雄全国印刷緑友会会長を初め、ぎふ翠陽クラブ、名古屋而立会、茨城緑友会、印刷同友会、文京緑友会、東京製版若葉会、プロセス青樹会、神奈川正和会など緑友の仲間もかけつけて盛大であった。

式典は、まづ中村勝亮幹事長が挨拶に立ち、10年前の学園紛争と内ゲバ、3億円事件、川端康成のノーベル文学賞受賞などの事件の年に、千代田の青年印刷人の息吹きが結集されたことから説きおこし、「私が新世会で得たものは、良き友との出会い、意気に感じて種々の事業が出来たことです。緑友の仲間が遠方からもかけつけてきてくれたその友情に胸が熱くなります。この10年をひとつの節として、創立の初心に思いをいたし、同じ仲間としての輪を広げ、印刷業界の発展につながる次代へのスタート、と認識しています」。と結んだ。

新しい会旗の披露

子供たちも一緒に仲良く！

ついで多数来賓の代表として、支部顧問新村長次郎氏が、50年間の経験から、不況であってもなんでもない、自社の新機軸を打出し、顧客へ新しいものを提起することが発展の基礎で、現在のあり方をよく認識すべきであることを強調する、檄をとばされた。

このあと、歴代幹事長として初代八十島敏行君から順に、2代下谷隆之、3代永田真一、4代新村敏明、5代筒井尚亮、6代加藤純男、7代山口雅也、8代青木宏至そして9代中村勝亮君まで、司会者から各期のテーマ説明とともに紹介され勢揃いした。また、新世会の会旗が披露され、紅一点の会員、佐野素子さんから、シンボルマークの説明が行なわれ、人の頭とSを横にして、黒とオレンジにより強い連帯感を視覚化した、ものであるとのべられた。

式典終了後は、家族全員が一堂に会しての記念パーティーに移り、作道全国印刷緑友会会長の来賓挨拶、市村支部顧問による乾杯のあと、一家族づつ自己紹介や、歌の披露もあって、"若さならでは"の楽しいパーティーがくりひろげられた。